

# Business Report 2011

## 平成23年3月期 中間報告書

(平成22年4月1日～平成22年9月30日)



代表取締役社長 山本和広

天然素材のフィールドで、  
“おいしさと健康”を追求します。

### 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私は本年11月5日開催の取締役会において、坂井前社長の後を受け、代表取締役社長に就任いたしました。責任の重さを痛感するとともに、身が引き締まる思いです。今後一層社業発展に努力いたす所存ですので、ご支援ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

さて、ここに平成23年3月期中間報告書をお届けするにあたり、事業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の食品業界は、厳しい雇用・所得環境の影響により、国内消費は伸び悩み、生活防衛意識からの低価格志向による価格競争が一段と激しくなるなど、厳しい収益環境が続いております。

このような環境下、当社グループは当年度よりスタートした3カ年中期経営計画「チャレンジ&グロース」を推進し、機能食品の強化、海外市場の積極展開、国内市場の安定確保に取り組みました。

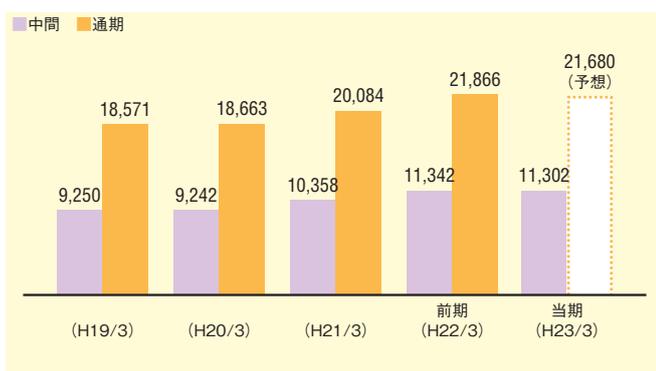
当第2四半期連結累計期間において、前半は堅

調な業績を上げることができましたが、後半は今夏の猛暑により消費が低迷し、受注が全般的に落ち込むとともに、機能食品において、一部取引先の在庫調整の影響を大きく受け、さらに消費者の低価格志向と競争激化による機能性素材の販売不振も加わり、水産物の売上増加を打ち消す結果となり、売上・利益面ともに苦戦を強いられる状況でありました。

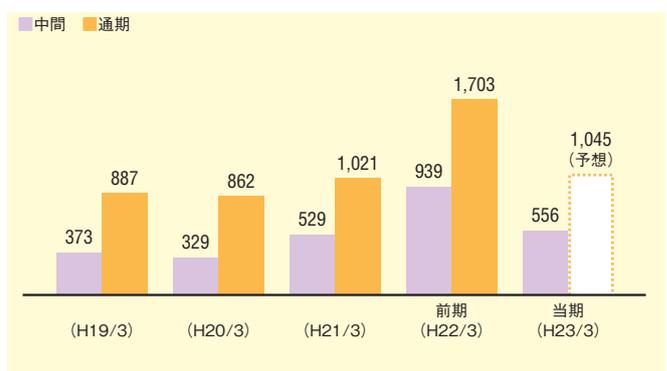
その結果、売上高は113億2百万円（前年同期比0.4%減）、利益面においては機能食品の売上減少および広告宣伝費の増加に加え、当年度新設した連続真空乾燥機2号機の償却負担増加などにより営業利益5億56百万円（同40.8%減）、経常利益5億66百万円（同43.7%減）となりました。中間純利益につきましては、第1四半期に退職給付制度の改定に伴う特別損失を計上したため2億86百万円（同54.1%減）となりました。

当社としましては、この大変厳しい現状に対して全社一丸となって収益の回復に取り組む所存です。今後とも株主の皆様のご理解を賜り、末長いご支援をいただきますようお願い申し上げます。

連結売上高 (単位：百万円)



連結営業利益 (単位：百万円)



# セグメント別の状況について

以下における各分野の営業利益は配賦不能費用（412百万円）控除前のものです。

## ■ 調味料

売上高：38億95百万円  
営業利益：3億58百万円

国内消費の伸び悩みから需要は頭打ちの状況の中にあります。液体調味料は需要の低下が底を打ちつつあるものの、粉体調味料は不採算製品の整理で売上は減少しました。

## ■ 機能食品

売上高：43億87百万円  
営業利益：5億8百万円

連続真空乾燥機を使った粉末製品が、当中間期の後半に一部取引先の在庫調整の影響を大きく受け、減収減益の主な要因となりました。さらに機能性素材は、消費者の低価格志向による販売不振、競争激化による単価の下落などで売上・利益面ともに減少しました。

## ■ 水産物

売上高：20億89百万円  
営業利益：59百万円

利益率の低い問屋部門の仲介買付が増加したため売上高に大きく寄与しましたが、利益には結びつきませんでした。

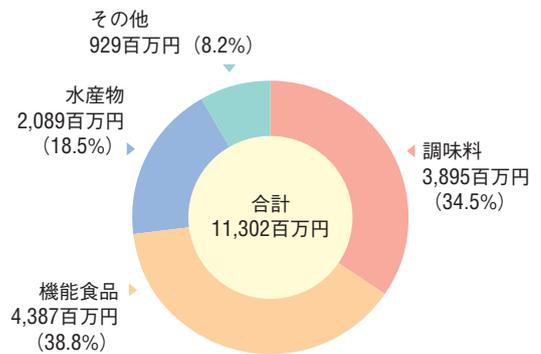
## ■ その他

売上高：9億29百万円  
営業利益：41百万円

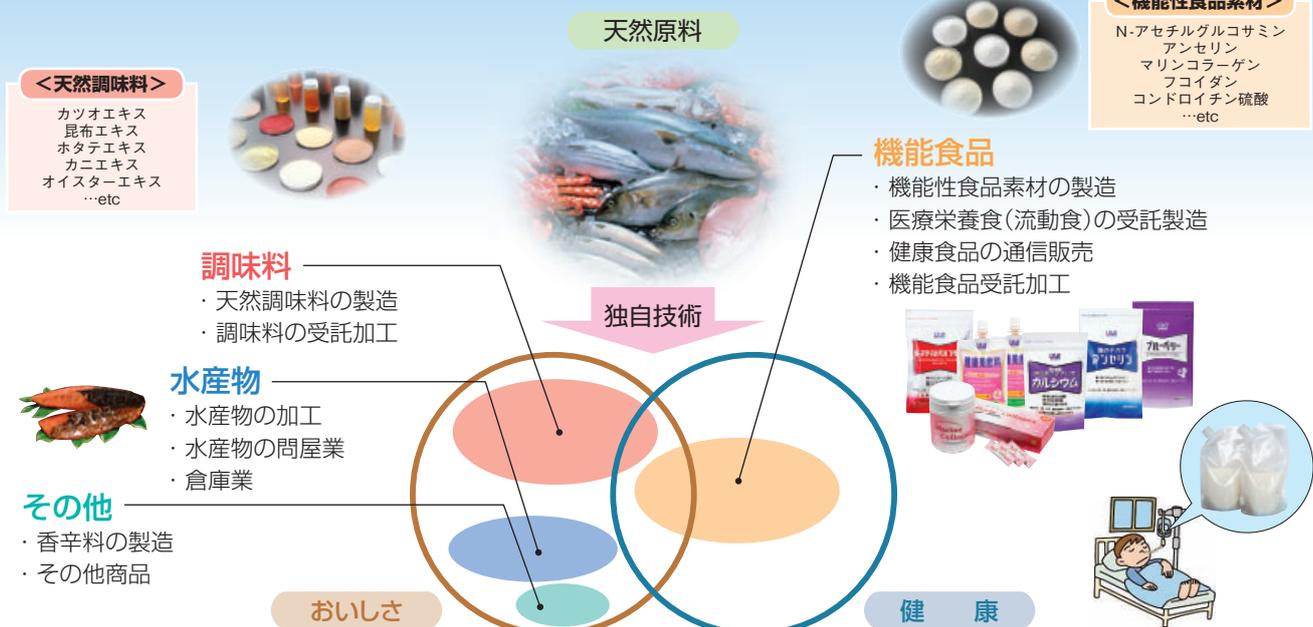
各種ワサビ類他香辛料の製造販売、その他商品の販売は、価格競争が一層激しくなっています。

※当年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」に基づき、各セグメント内の構成品目を用途別に変更しました。このため、セグメント別実績の前中間期比較は算出しておりません。

セグメント別売上高構成比  
(当中間期)



## 当社グループのセグメント



# 当社の取り組み

## 1. N-アセチルグルコサミン認知度向上への取り組み

N-アセチルグルコサミンは当社の主力製品の一つで、美容や軟骨の健康をサポートする飲料やサプリメントなどに配合されています。

当社は4月、N-アセチルグルコサミンをわかりやすく解説した特設サイトを開設しました。また、当社が運営に協力している、肌の乾燥に悩む人を対象に情報を提供する「ドライスキン広報センター」のウェブサイトが、9月にリニューアルしました。



N-アセチルグルコサミン特設サイト  
([http://www.yskf.jp/acetylglucosamine/01\\_n/](http://www.yskf.jp/acetylglucosamine/01_n/))



ドライスキン広報センター  
(<http://dryskin.jp/>)

## 2. 海外事業の強化

本年度からスタートした新たな中期経営計画「チャレンジ&グロース」の中で、当社は海外展開の強化を重点目標の一つに掲げ、中国を重要な市場と位置付けています。

当社グループの中国国内向けの販売は、これまで当社の海外営業部と子会社の大連YSKが行ってきました。しかし本格的な販売展開には、上海に営業と情報収集の拠点を設けることが必要と判断し、10月に大連YSKの上海事務所を開設しました。

また中国語サイトを9月に開設し、情報発信も強化しています。

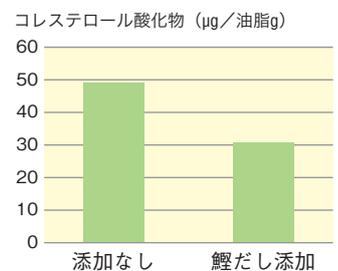


中国語サイト  
([http://www.yskf.jp/yskf\\_ch/](http://www.yskf.jp/yskf_ch/))

## 3. 鰹だしの健康効果を発表

「鰹だし」が、活性酸素の働きを抑制する効果およびコレステロールの酸化を抑制する効果について、8月末～9月初めにかけての学会で発表しました。今回は生体内での実験ではないため、今後はさらに詳しい試験をして実際の健康効果を調べる予定です。

鰹だしのコレステロール酸化抑制作用



## 4. 環境への取り組み

平成21年度の環境活動を紹介した環境報告書を9月、当社のウェブサイトに掲載しました。今回は工場だけでなく、会社全体の施策についても記載しました。

URL:<http://www.yskf.jp/company/environment.html>



環境に関する講習会

### ・従業員教育

環境に関わる従業員教育を定期的に行っています。平成21年度は外部から講師を招いた講習会を2回行い、製造部員を中心にのべ52人が参加しました。



海岸の清掃

### ・地域清掃活動

本社のある焼津市で、定期的に地域清掃活動を実施しています。平成21年度は3回実施し、のべ84人の社員が参加しました。



平成21年度環境報告書

## 連結財務データ

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当中間期末 (平成22年 9月30日)	前 期 末 (平成22年 3月31日)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	11,252	11,774
固定資産	10,056	10,196
有形固定資産	6,997	7,214
無形固定資産	249	48
投資その他の資産	2,809	2,933
資産合計	21,309	21,971
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	3,156	3,803
固定負債	774	760
負債合計	3,930	4,563
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	17,658	17,540
資本金	3,617	3,617
資本剰余金	3,414	3,414
利益剰余金	10,633	10,514
自己株式	△ 5	△ 5
評価・換算差額等	△ 280	△ 133
その他有価証券評価差額金	△ 258	△ 130
為替換算調整勘定	△ 22	△ 2
純資産合計	17,378	17,407
負債・純資産合計	21,309	21,971

#### Point

- ①<資産>  
■未払法人税等流動負債の減少に伴い、現金及び預金が減少したことから6億62百万円の減少となりました。
- ②<負債>  
■流動負債が減少したため、6億33百万円減少しました。
- ③<純資産>  
■利益剰余金が増加したものの、その他有価証券評価差額金が減少したため、29百万円減少しました。

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成22年 4月1日から 平成22年 9月30日まで)	前中間期 (平成21年 4月1日から 平成21年 9月30日まで)
売上高	11,302	11,342
売上原価	8,841	8,728
売上総利益	2,461	2,614
販売費及び一般管理費	1,905	1,675
営業利益	556	939
営業外収益	56	83
営業外費用	46	17
経常利益	566	1,005
特別利益	—	0
特別損失	97	9
税金等調整前中間純利益	468	995
法人税等	181	370
中間純利益	286	625

#### Point

- ①<売上高>  
■今夏の猛暑により消費が低迷したことや取引先の在庫調整の影響を大きく受けたことなどから、40百万円減少しました。
- ②<営業利益>  
■機能食品の売上減少などで3億83百万円減少しました。

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	当中間期 (平成22年 4月1日から 平成22年 9月30日まで)	前中間期 (平成21年 4月1日から 平成21年 9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	31	954
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 372	6
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 339	△ 485
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13	7
現金及び現金同等物の増加額(減少額△)	△ 693	482
現金及び現金同等物の期首残高	2,948	2,017
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,254	2,500

#### Point

- ①<営業活動によるキャッシュ・フロー>  
■中間純利益が伸び悩んだことから、増加した資金は31百万円となりました。
- ②<投資活動によるキャッシュ・フロー>  
■有形固定資産の取得などにより、減少した資金は3億72百万円となりました。
- ③<財務活動によるキャッシュ・フロー>  
■長期借入金の返済や配当金の支払などによって、減少した資金は3億39百万円となりました。

## 会社概要

(平成22年9月30日現在)

■会社名	焼津水産化学工業株式会社
■事業内容	天然調味料および機能食品の製造販売
■資本金	36億1,764万円
■創業年月日	昭和34年5月15日
■取引銀行	静岡銀行本店営業部／りそな銀行東京営業部
■従業員数	289名
■事業所	静岡本部 〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町11番1号 静岡・中京銀静岡駅前ビル6F TEL.054-202-6030 FAX.054-202-6031
■焼津本社	
■営業所	東京営業所 大阪営業所 名古屋営業所 静岡営業所 九州営業所
■工場	静岡県内3工場(焼津・団地工場 榛原工場 大東工場)

■連結子会社			
会社名	オーケー食品株式会社	会社名	マルミフーズ株式会社
資本金	50百万円	資本金	100百万円
当社の議決権比率	100%	当社の議決権比率	100%
主な事業内容	香辛料および調味料の製造	主な事業内容	水産物の加工製造
会社名	大連味思開生物技術有限公司	会社名	UMIウェルネス株式会社
資本金	505百万円	資本金	50百万円
当社の議決権比率	100%	当社の議決権比率	100%
主な事業内容	天然調味料および機能食品の製造販売	主な事業内容	健康食品の通信販売

## 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで。
- 定時株主総会 毎年6月下旬に開催いたします。
- 期末配当金・中間配当金 期末配当金については3月31日現在の株主様に対し、中間配当金については9月30日現在の株主様に対し、ご指定の方法によりお支払いいたします。
- 単元株式数 100株
- 上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第1部
- 基準日 (1) 毎年3月31日といたします。  
(2) その他必要ある場合には、あらかじめ公告をもってお知らせいたします。
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社  
(〒168-0063)
- 同事務取扱所 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
電話番号 (0120)78-2031 (フリーダイヤル)

- 同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
  - 公告掲載新聞 日本経済新聞に掲載いたします。
  - 株式に関する各種手続きのお申し出先
    1. 証券会社経由で証券保管振替機構(ほふり)に株式がある場合  
株主様が口座を開設している証券会社
    2. 特別口座に株式がある場合  
中央三井信託銀行株式会社  
お問い合わせは下記の証券代行部フリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。
  - フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付:自動音声案内)
  - ホームページ [http://www.chuonitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuonitsui.co.jp/person/p_06.html)
- ※配当金領収書で配当金をお受け取りの株主様は、別紙「配当金口座振込サービスのご案内」をご覧ください。